

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑬

「四国霊場名勝記」は明治期に四国霊場を撮影した最古級の写真集である。明治42（1909）年の出版で、発行人は大阪市の西尾為次郎、印刷者は藤井由翠堂、発行者は西尾多満彌堂と記されている。

冒頭に弘法大師御影を掲げ、東寺、高野山奥之院、発行人の所在地にある摂津国八十八ヶ所霊場の一つである和光寺（大阪市西区）と境内にある阿弥陀池の写真を掲載。以下、

四国八十八ヶ所霊場の1番から88番の順に、各札所の基本情報（所在地、本尊名、御詠歌、略縁起、次の札所までの距離）とモノクロ写真が1枚ずつ収録されている。写真図版は合計94点。

収録する各札所の古写真は、境内の一部の限られた景観を撮影したものであるが、当時の諸堂の配置、本堂や大師堂などのたたずまい、境内の荒廃や整備状況、門前や境内での物売り、参

四国霊場の最古級写真集



①明治後期の45番札所岩屋寺。左から二王門と大師堂が並ぶ
 ②江戸時代から難所として知られる室戸阿南海岸「はね石・ごろごろ石」
 ③いずれも「四国霊場名勝記」（個人蔵）より、県歴史文化博物館保管

明治の札所様子伝える

揮する通路の姿などが記録の様子を垣間見ることができ、明治後期の四国遍路

上の写真は一遍上人ゆかりの修行地として知られる

45番札所の岩屋寺（久万高原町七鳥）の二王門と大師堂周辺の様子が写し出されている。二王門は入母屋（いりもや）造りの草葺（かぶき）

本書は明治時代初期の様子を伝える貴重な写真資料

きで、現在の大師堂（大正9年建立、国重要文化財）以前の旧大師堂の姿、境内を囲む塀などが造られている途中とみられ、その資材と思われる板材が多く置かれるなど、当時の境内の様子がつぶさに確認できる。

もう一枚の写真は、高知県室戸市の24番最御崎寺（ほつみさきじ）付近にある室戸阿南海岸の「はね石・ごろごろ石」。江戸時代から知られる難所であるが、こつした特色ある遍路道の風景も収録されていて興味深い。

市）のテーマ展「ぶらり四国遍路」では、本書に収録する愛媛の四国霊場26ヶ所の古写真を展示中。3月29日まで。

県歴史文化博物館（西予市）のテーマ展「ぶらり四国遍路」では、本書に収録する愛媛の四国霊場26ヶ所の古写真を展示中。3月29日まで。

（専門学芸員・今村賢司）
 △月2回掲載します▽
 × × ×